

科目番号	EB213				
科目名	素材生産総合実習				
担当教員	岩崎 幸太郎 (森林大学校専任教員)ほか				
科目区分	林業機械		人材養成の方針	即戦力	リーダー
対象学年	2年		授業形態	実習	
開講時期	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	単位数
授業時間数	30		コマ	( 60 単位時間 )	
実務経験のある教員による授業科目	—		左の実務経験の内容	—	
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	○		左の実務経験の内容	高性能林業機械オペレーター	
実務経験を活かした授業内容	高性能林業機械オペレーターの指導のもと、高性能林業機械の確実な操作技術を学ぶ				

目的	習得した伐木造材技術、高性能林業機械の操作技術に加え、森林調査や森林施業プラン作成等の知識を総動員し、与えられた条件の下で安全かつ効率的な施業を実施するための企画力と実行力を養成する。 また、習得した技術のふりかえりとして、伐倒練習機等を用いて基礎技術の定着を確認する。
概要	指定する森林の区域を事業地として、指定する機材を用いて、指定する期間内に、安全かつ効率的な搬出間伐を計画し、実行する。また、実行の成果を分析し、より安全かつ効率的な作業を行うための改善計画をたて、実行に移すPDCAサイクルを取り入れ、実務的な実習を行う。実習の締めくくりとして、伐倒練習機等を用いて技術の定着を確認し、翌春の就業に備える。
キーワード	①安全作業、②作業計画、③作業分析、④PDCA、⑤基礎技術の定着
関連する科目	林業機械学(技能講習等1a,1b,1c,d,2)
到達目標	○ 森林林業の即戦力として活躍するための実践的な技能の習得 ○ 森林林業の次代のリーダーとなるための専門知識及び技術の習得 ○ 多自然地域の振興や課題解決に貢献するための幅広い知識及び技術の習得
評価方法	態度50%、試験50%

授業計画	テーマ	講義内容
1～4	作業計画の立案	指定する森林の区域を現地調査により確認し、用いることのできる機材等の条件を勘案して作業計画を立案する(1日目の終日)
5～10	作業の実施	1～4で立案した計画に従い作業を実施する(2日目の終日+3日目の午前)
11～12	作業計画の検証と改善計画の立案	5～10の作業実績の分析等により作業計画を検証し、作業をより安全かつ効率的に実施するための改善計画を作成する(3日目午後)
13～18	作業の実施	11～12で立案した改善計画に従い作業を実施する(4日目の終日+5日目の午前)
19～20	作業計画の検証と改善計画の立案	13～18の作業実績の分析等により改善計画の効果を検証し、2年間で習得した技術のふりかえりを行う(5日目午後)
21～30	伐倒練習機等による基礎技術の確認	伐倒練習機等を用いて技術の定着を確認する(5コマ×2日間)(全7日間30コマ(45h)) [高性能林業機械45h]

テキスト	
参考書	
関連する資格	車両系建設機械(整地・運搬・積込み用及び掘削用)運転技能講習、走行集材機械の運転業務に係る特別教育、伐木等機械の運転業務に係る特別教育

備考

1～20は連続する5日間(1週間)で実施する。素材生産総合実習は、安全意識の定着を最大の目的として実施し、実習期間中、安全衛生規則に反するなど危険な行為が認められた場合、指導員が警告を行う。実習期間中、累積して警告を2回受けた者は、以降の実習参加を認めない。また、事故に直結するような重大な違反の場合は、直ちに実習地からの退出を命じ、退出後の実習参加は認めない。  
なお、出来高測定やコスト分析等、各自の能力を最大限発揮できるような役割分担を計画する場合は、必ずしも全員が林業機械を操作する必要はない。